

嫌気性菌：L-乾燥アンプルからの復元培養法

JCMには数多くの嫌気性菌を保有していますが、そのうちある程度酸素に耐性のある菌株はアンプルにて提供しているものもあります。その復元培養には嫌气的操作が必要となる場合があります。嫌気チェンバーを用いず、アンプルから嫌気性液体培地へ復元培養する例を紹介し

ます。

1



事前に嫌气的に調製した培地を含む培養試験管3本（各5~10 ml培地）、および1ml容シリンジ2本（1本はカテラン針を取り付け）を使用します。

2



常法に従いアンプルを開封します。一方、カテラン針をつけたシリンジ内部をガス置換します。

3



1本目の培養試験管からシリンジを用いて嫌气的に0.3~0.5 mlの培地を取り、静かにアンプル底部に移し、泡立ないようにピストンを数回前後に動かしL-乾燥菌体を懸濁します。

4



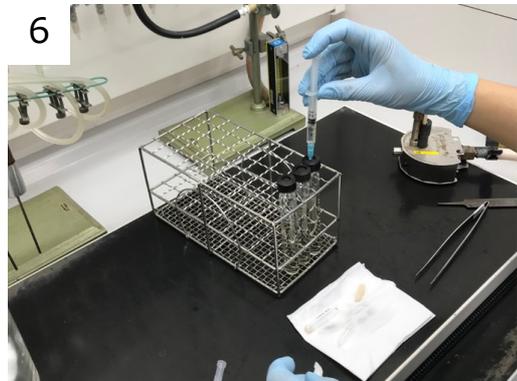
空気を吸わないように注意しながら細胞懸濁液をシリンジで吸い上げ、1本目の培養試験管に接種します。この際シリンジ内の気相部も培養試験管に入らないようにして下さい。

5



続いてもう一本の針付きシリンジを同じように内部をガス置換してから、1本目の懸濁液から0.5~1.0 mlの懸濁液をとり、2本目の培地に接種します。

6



引き続き2本目の懸濁液の一部を取り、3本目の培養液に接種します。これら段階的に希釈した懸濁液を所定の温度に静置します。